

# オンリーワン農水産品創出事業

## 鳴門ワカメの新商品開発

團 昭紀・加藤慎治

増加する輸入農水産物あるいは激化する産地間競争に対抗するには、魅力ある農水産品の開発・育成が極めて重要である。このため、他にはない（オンリーワン）商品性の高い「とくしまブランド」農水産品を創出するための技術開発を実施する。

### 材料と方法

#### ア 芽生えワカメの生産技術開発

農業分野では、ビタミンやミネラルが豊富で、成長した野菜よりも効率的な栄養摂取が可能とされる食用植物の新芽（スプラウト）が既に流通している。このため、ワカメのスプラウト生産技術を開発する。新商品の栄養価、物性等について従来養殖されているワカメとの比較をおこない商品特性を把握する。新商品の市場特性について調査する。

#### イ 早採りワカメの生産技術開発

一般に、早期に収穫したワカメ（早採りワカメ）は、先枯れ（廃棄）部位や付着物が少なく高品質である反面、単位収量が少なく、生産者に敬遠されている。しかしながら、早期収穫は複数作や高密度養殖による単位収量増の可能性も秘めている。このため、早採りワカメのモデル養殖技術を確立する。

### 結果と考察

#### ア 芽生えワカメの生産技術開発

スプラウト研究会を設立し、生産から流通販売までの体制の構築を図った。研究会メンバーは、研究所が中心となり生産者と流通販売業者グループ、大学（東京海洋大学、徳島大学）、工業技術センターである。平成15年は、2回実施した。

他産地の視察として、宮城県、岩手県のワカメ養殖産地を東京海洋大学とともに生産、流通面の調査をおこなった。

芽生えワカメの試作品を大阪事務所の協力を得て、大阪ABCスプリングフェスタに出品し、東京海洋大学と共同でアンケートをおこなった。

芽生えワカメ生産技術開発は、種苗の選定、培養、養殖、収穫、加工方法について研究を行った。

今後は、徳島県のオンリーワン産地形成をめざし進めてゆくのがよいと思われる。

#### イ 早採りワカメの生産技術開発

鳴門町漁協に養殖と加工を委託し、実施した。複数作に必要な、種苗生産技術と養殖期間などの基礎的なデータを得た。今後は、栄養塩不足による2～3月を避けた、2期作技術を県南部漁場で普及する必要がある。